

社会福祉法人 天真会

令和2年度 無限の可能性向上プログラム（自園評価）



園名：いろどり真愛保育園

実施日：令和2年11月26日

第1章 総則

- 1 子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した保育ができています。
- 2 地域社会との交流や連携を図り、保育の内容を適切に説明するよう努めている。
- 3 職務上知り得た子どもや保護者に関する情報について、正当な理由なく家族や友人にも、話さないようにしている。また、保育士でなくなった後においても同様であることを知っている。
- 4 SNS、ブログ、ツイッター、FACEBOOK等に、児童や職員、園の情報を流出しないということを理解している。
- 5 あなたの園の苦情解決システムについて説明できる。
- 6 自己判断で回答せず責任者への報告をし、解決のための話し合いができる。

総合 ポイント	考察
4.5	子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した保育をするよう心がけている。
4.2	地域社会との交流や連携は感染症の影響を受け、難しかったが、今後の感染状況を見ながらできるところは進めていきたい。
4.8	SNSの取り扱いについては、引き続き園での情報を流出しないように徹底する。
4.9	
3.9	
4.7	

第2章 保育の内容

- 7 子どもの発達は、豊かな心情、意欲、態度を身につけ、新たな能力を獲得していく過程であることを理解している。
- 8 子どもの発達の特性や発達過程を理解し、「発達の連続性」に配慮して保育をしている。
- 9 大人との信頼関係を基に、身近な環境を通し成長することが乳幼児期の発達の特性であることを理解している。
- 10 心身の発達の個人差を理解するために、一人一人の生理的、身体的な諸条件や生育環境の違いを把握している。
- 11 子どもの発達過程のおおむね8つの区分を理解し、一人一人の発達に合わせ援助していくことの重要性を理解している。
- 12 発達過程に「おおむね」がつくことで、個人の発達には幅があり、前後の年齢につながりを持って成長していることを理解している。

総合 ポイント	考察
4.6	保育所保育指針については、一人ひとりが学びを深めていく。
4.3	個人の発達や月齢の幅がある事を理解するために、クラスの職員間で話し合いや伝達などを通して共通理解を深めていく。
4.6	
4.4	
4.2	
4.4	

乳児保育

- 13 ひとりひとりの育ちに合わせ、家庭と連携しながら離乳食を進めている。
- 14 抱いて目を合わせたり、微笑みかけたりしながら、ゆったりと授乳している。
- 15 おむつ交換は、やさしく声をかけながら行っている。
- 16 一人一人の生活リズムに合わせて睡眠がとれるように、静かな空間を確保している。
- 17 喃語には、ゆったりとやさしく応えている。
- 18 しぐさや声や動きを介して発する要求を察知し、それに応じた適切な対応をしている。
- 19 子どもの言葉にならない思いやサインなどの心の動きを理解するよう努めている。
- 20 制止やせかず言葉を不必要に使わず、一人一人に合わせた対応をしている。
- 21 日々の生活の中で、子どもが安心感と自己肯定感を持てるような温かい言葉かけをしている。
- 22 子どもの頭を飛び越えて、大きな声で注意や指示をしていない。(緊急を要する時は除く)
- 23 いつでも安心して休息できる雰囲気やスペースを確保している。
- 24 保育所保育は「養護と教育」が一体となって展開されることに留意している。
- 25 養護と教育は、子どもの生活や遊びを通して相互に関係を持ちながら、総合的に展開されることを理解している。
- 26 「養護」は子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために、保育士等が行う援助や関わりであり、「教育」は子どもの活動がより豊かに展開されるための発達援助であることを理解している。
- 27 「養護」は生命の保持と情緒の安定で構成され、「教育」は健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域から構成されていることを理解している。

総合 ポイント	考察
4.7	子どもの気持ちに寄り添い、子どもの言葉にならないサインなどの心の動きを理解するよう全職員が理解を深めていく。発達段階については個人で学びを深めていく。
4.6	
4.6	
4.5	
4.7	
4.5	
4.6	
4.0	
4.4	
4.4	
4.3	
4.3	
4.3	
4.3	

養護

〈生命の保持〉

- 28 登園してくる子どもに、あいさつをしながら、視診・触診をして健康状態を確認している。
- 29 保護者から健康状態の申し出を受けるなど、子どもの健康情報を共有し、アレルギー、熱性痙攣、脱臼癖、ぜんそくなどの有無などの既往症について、すべての職員に対して周知するとともに、その発症時の対応についても保護者と話し合いがなされている。
- 30 毎日の清掃のほか、布団の消毒や乾燥を定期的に行っている。
- 31 玩具や砂場の消毒、園庭の危険物の排除や固定遊具の点検などを常に行っている。
- 32 各部屋の採光、温度、湿度、音、換気に配慮している。単に一定の温度に保つだけでなく、夏は外気温との差を5℃程度に保つなどして、子ども自身の環境順応性を失わせないようにしている。
- 33 一人一人の排泄間隔を把握し、トイレに行くことをせかしたり強制したりせず、一人一人のリズムに合わせている。
- 34 登園時、泣く子どもの状況に対して、放っておいたり、叱ってしまうことがないようにしている。
- 35 登園時、子どもの状況に応じて、抱いたり、やさしく声をかけたりしている。

総合 ポイント	考察
4.8	登園前に保護者には必ずお子さんの検温をしていた だき、体温をおたより帳に記入してもらっている。ま た、登園時や保育中も、定期的に視診や触診を実施 したり、感染症対策として、園児やその家族の体調を 聞き取りし状況把握しながら健康管理に努めている。
4.8	
4.7	
4.4	
4.3	
4.2	
4.6	
4.8	

教育

健康

- 36 衣類の着脱にあたっては、自分でしようとする気持ちを大切に、励ます、褒めるなどして、着脱への意欲が持てるよう必要な援助を行っている。
- 37 戸外で遊ぶ機会を多く取り入れている。
- 38 友だちと一緒に体を動かすことを楽しめるように働きかけている。
- 39 健康な生活のリズムを身に付けるよう、子どもの一日の生活の流れを考えながら保育している。
- 40 戸外の活動の後や、食事の前、排泄の後の手洗いを励行するなど、清潔の習慣が身につくよう援助している。
- 41 食事、排泄など、生活に必要な活動の仕方を身につけるよう、働きかけている。
- 42 衣類の着脱を自分でやろうとしている子どもの気持ちを大切にしている。
- 43 危険に気づいて行動できるよう、安全についての心構えを日頃から話し合っ共有している。

総合 ポイント	考察
4.6	遊びの中で友達と一緒にダンスをしたり、鬼ごっこを したりと、身体を動かすことを楽しめる活動を取り入 れている。今後も引き続き、友だちと協力して楽しめ ることのできる遊びなどを取り入れていきたい。 手洗いに關しては、昨年度、正しい手洗いの方法の 掲示物を準備し、子ども達へ啓発することができた。 コロナ禍で、引き続き、手洗いの大切さについて話し 合う機会をもっていきたい。また、手洗いの歌を楽しく 覚えたり、消毒の大切さなどを伝えたりしたこと、子 ども達自身の健康への意識も高まっている。
4.8	
4.6	
4.6	
4.7	
4.7	
4.6	
4.4	

人間関係

- 44 子どもが保育士や友達と過ごすことの喜びを感じることができるような配慮をしている。
- 45 子ども同士が思ったことを相手に伝え、相手の思っていることにも気付けるように援助している。
- 46 友達との関わりの中で、友達の良さや大切さに気付くようにしている。
- 47 園生活の中で、順番を守るなど、きまりの大切さを理解できるように、丁寧に説明している。
- 48 身近な友だちとの関わりを通し、相手を思いやり、譲り合う気持ちを身に付けるよう援助している。
- 49 家族の愛情に気付き、家族を大切にしようとする気持ちを育てている。
- 50 園生活の中で、自分でできたという充実感を味わえるような体験を取り入れている。
- 51 友だちと一緒に喜んだり、悲しんだりすることができる機会をつくっている。
- 52 異年齢児の交流ができる保育環境を作っている。
- 53 外国の人や文化の違う人に親しむ機会を作っている。
- 54 友だちと一緒に一つのことをやり遂げることにより、達成感が味わえるような機会をつくっている。
- 55 良いことや悪いことに気付き、考えて行動することができるように配慮している。
- 56 様々な活動を通して、共同の遊具や用具を大切に使う気持ちが育つように配慮している。
- 57 高齢者や地域の人と関わり、親しみや感謝の気持ちを味わうことができる機会をつくっている。

総合 ポイント	考察
4.5	通年、異年齢交や地域の方々との交流を持てる機会 はあるが、感染症の影響もあり、例年通りの実施は 厳しかった。状況により、縮小して実施することもでき た。 活動については、職員間で出来そうなことを話し合っ たり、工夫したりしながら、人との繋がりを大切にす ていきたい。
4.5	
4.5	
4.4	
4.5	
4.3	
4.6	
4.5	
4.0	
3.4	
4.3	
4.3	
4.2	
3.5	

環境		総合 ポイント	考察
58	保育士が、季節感を取り入れた生活を楽しめるような取り組みや、感じ取る感受性を大事にしている。	4.5	<p>保育活動を通して、自然に触れ合う機会や、季節を感じらる活動を取り入れていくことで、好奇心や探求心、思考力等が育まれている。</p> <p>身近な動植物を大切にしたり、野菜を育て、味わったりする経験から生命の尊さを感じられるようにしている。</p> <p>生活の中で身の回りにある簡単な標識や文字に関心が持てるように保育に取り入れていく。</p>
59	草花遊び・泥んこ遊びや雪遊びなど、自然と直接触れ合う遊びを季節に合わせて取り入れている。	4.5	
60	季節に応じた伝統行事に触れる機会を大切にしている。	4.5	
61	気候や気温の変化で服装や、生活の仕方が変わること気付くよう配慮することができる。	4.4	
62	園外保育で、公共機関などを利用し、地域に興味を持てるようにしている。	3.9	
63	子どもが身近な物との関わりや愛着を深め、自分から大切にしようとする気持ちを持てるように、保育士がその物に応じた関わり方や扱い方、片付け方等を繰り返し丁寧に伝えている。	4.3	
64	身近な自然を通して、その美しさ、その不思議さなどに気付くことができるようにしている。	4.1	
65	心の安らぎや、豊かな感情を体験できるように、子どもと自然との触れ合いを大切にしている。	4.4	
66	土、砂、水などの自然に触れて過ごしたり、遊びに取り入れたりする中で、好奇心や探求心、思考力が生まれるようにしている。	4.5	
67	身近な動植物に親しみを持ち、いたわったり大切にしたり、作物を育てたり、味わったりするなどして、生命の尊さに気付くようにしている。	4.5	
68	身近な自然事象に触れ「どうして」や「なぜ」といった疑問に対して、図鑑や関連する絵本などを用意したり一緒に調べたりしている。	4.0	
69	日常生活や遊びの中で、数量や図形などに関心を持つように工夫している。	4.0	
70	身の回りにある簡単な標識や文字に関心を持つよう工夫している。	3.7	

言葉		総合 ポイント	考察
71	正しく、美しい言葉で子どもに話しかけている。	3.7	<p>子ども達との関わりを通して、生活に必要なあいさつや言葉を伝えることができた。また、経験したことや、自分の気持ちを言葉で表現する機会を大切にしている。</p> <p>子どもの伝えたい気持ちを大切に、相槌を打つことや、ゆったりと話を聞きくような関わりを心掛けた。日常の遊びの中で文字や記号のやりとりのある遊びを子ども達が楽しめるよう、保育の中でさらに工夫していきたい。</p>
72	子どもの伝えたい気持ちを言葉だけでなく、身振りや表情、仕草などでも理解し応答することができる。	4.2	
73	子どもがしたいこと、してほしいことを話しているとき、最後までゆったりと聞くよう努めている。	4.2	
74	子どもが見たこと、聞いたこと、感じたことなどを、その子なりの言葉で表現する機会を大切にしている。	4.3	
75	子どもが人の話を注意して聞くことで、人の話に共感することや、話の内容を理解することができるように関わっている。	4.2	
76	基本的な生活習慣に基づいたあいさつ「ごめんなさい」「ありがとう」など、生活に必要な言葉をいつも使えるように保育している。	4.5	
77	子どもたちの興味や発達過程に応じた絵本や物語を選んでいる。	4.4	
78	日常生活の中で、文字や記号のやりとりのある遊びを楽しめるよう工夫している。	3.8	

表現		総合 ポイント	考察
79	様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わえるような機会をもうけている。	4.2	<p>今年は、日常の保育の中で、各クラスで劇遊びをしたり、踊ったり表現する楽しさを味わうことができた。</p> <p>子ども達は様々な素材を使って感触遊びをしたり、廃材を使い様々な形を作ったりと創作活動を楽しむことができた。</p> <p>個別の関わりが必要な子に対しては、一人ひとりに合わせた計画を立案し、保育を実践している。</p> <p>保護者の方とは連携を密に図り、その子が過ごしやすい保育を心掛けている。また、専門機関から助言を受け、ケース会議を行い、発達の状況、対応の仕方などを共有している。</p> <p>職員は、毎月目標を立て自己評価を行い、保育を振り返る機会を設けている。今後も他者からの意見を謙虚に受け止め、日々の保育に活かしていく。</p> <p>近隣の小学校との交流を年に数回設け、就学に向けて期待が持てるよう連携を取っている。</p>
80	様々な素材や用具に親しみ、工夫して創作活動を楽しめるよう環境を設定している。	4.2	
81	音楽を聴いたり、歌を歌ったり踊ったりする機会をつくっている。	4.6	
82	子どもが簡単な楽器を使う機会を提供し、音楽に親しみをもち楽しめるように工夫している。	3.6	
83	自分のイメージを言葉などで表現したり演じたりして、遊ぶ楽しさを味わえるようにしている。	4.0	
84	みんなで一緒に表現することのよこびを、味わえるような機会をつくっている。	4.2	
85	人前で表現する機会や場面を、保育の中でできるだけ多く用意している。	3.9	
86	生活する中で、身の回りにある様々な音、色、形、手触り、動き、味、香りに気付き、心地よさを感じる機会を作っている。	4.1	
87	園の理念や保育方針を説明することができる。	4.0	
88	保育課程は、保育所保育指針に示された子どもの発達過程や保育の内容に沿ったものとなっている。	4.4	
89	保育課程は、入所している子ども及び家庭の状況や保護者の意向、地域の実態を考慮し、保育所に適したものを作成している。	4.4	
90	指導計画作成は、必ず保育課程に基づいて作成している。	4.4	
91	年・月案などの長期的な指導計画と関連させ、子どもの生活に即した週・日案などの指導計画を作成している。	4.4	
92	できる・できないといった目に見える姿だけでなく、目に見えない子どもの心情・意欲や態度を理解しながら指導計画に反映させている。	4.3	
93	指導計画を作成する際は、一人一人の子どもの発達過程や子どもの状況に配慮している。	4.4	
94	指導計画は、日々の保育の連続性や季節の変化を考慮して作成している。	4.5	
95	あなたの指導計画の反省・評価は、次の指導計画作成に反映できるものとなっている。	4.2	
96	障がいのある子どもの保育については、一人一人の子どもの発達過程や障がいの状態を把握し、適切な環境を作り、障がいのある子どもが安心して生活できるよう配慮している。	4.3	
97	障がいのある子どもの保育については、園においては個別のケース会議などを行い、発達の状況と対応の仕方を確認している。	4.3	
98	障がいのある子どもの特性に配慮した個別の計画を作成し、保育を行っている。	4.3	
99	障がい児保育、特別支援教育などに関する研修にすすんで参加している。	4.1	
100	障がいのある子どもを持つ保護者の気持ちを受け止め、話をする機会などを設け、支援している。	4.4	
101	療育、医療機関などの専門機関から、必要に応じて助言を受けている。	4.5	
102	統合保育の意味を知っている。	4.0	
103	小学校と交流する機会を設けている。	4.3	
104	小学校教諭と意見を交換する機会を設けている。	4.2	
105	保育所児童要録は、保育における養護及び教育に関わる5領域の視点を踏まえ、一人一人の子どもの良さや全体像が伝わるように記入している。	4.2	
106	地域の自然、人材、行事や公共施設などを積極的に活用するよう指導計画を作成している。	4.1	
107	保育士は、自らの保育実践を振り返り評価し、専門性の向上や改善に努めなければならないことを知っている。	4.4	
108	保育所は保育内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するように努めなければならないことを認識している。	4.3	
109	自己評価など、自分の保育を振り返る機会を定期的に持っている。	4.5	
110	あなたの保育を同僚などに積極的に公開し、意見を聞くなど自分の保育の自己評価につなげている。	3.9	
111	園長・主任からの指示や会議などで結論が自分の意見と違うときも、それに従って気持ちよく協力している。	4.4	
112	自分の保育実践について、自分とは異なる他者からの意見を、感情的にはならず謙虚に受け止めることができる。	4.4	

第3章 健康及び安全

	報告 ポイント	考察
113	4.9	園内の設備や玩具、また園外の遊具などの消毒を毎日行ったり、オゾン発生器を使用し、園内消毒を実施しながら子ども達が健康に過ごせるよう感染予防対策に努めた。 子ども達の体調の変化にすぐ気付けるよう、必要に応じて細目に検温を行った。 職員のマスク着用、体調管理表の記入を行う事で体調管理の徹底、把握をすることが出来た。 散歩の際には、事前下見、人数確認や職員の連携など、職員一人ひとりが意識を高め取り組んでいるため安全に出掛ける事が出来ている。
114	4.7	
115	4.8	
116	4.6	
117	4.7	
118	4.8	
119	4.7	
120	4.3	
121	4.8	
122	4.7	
123	4.3	
124	4.2	
125	4.6	
126	4.7	
127	4.8	
128	4.9	
129	4.8	
130	4.5	
131	4.7	
132	4.7	
133	4.6	
134	4.6	

135	食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については全職員に周知されている。	4.1
136	食中毒発生時に原因究明が行えるよう、検査と記録を取り保管している。	4.6
137	子どもが調理体験をする場合は、衛生・安全面での事故を防止するため、クッキング段取表などを作成し周知徹底している。	4.7
138	子どものアレルギーに関して、入園時に保護者から十分な聞き取りを行い、職員全員が把握するよう職員会議等を通じて連絡を取り合っている。	4.9
139	除去食を提供する場合には、間違いがないように個別のお盆やトレーなどで分け、調理師同士や保育士と確認している。	4.9
140	小児科医やアレルギー専門の医師の指導を受け、「アレルギー疾患生活管理指導表」に記入してもらい、アレルギー除去を行っている。	4.8
141	保育者は食育の計画を作成し、日々の保育の中で子どもの「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培わなければならないことを理解している。	4.6
142	子どもが落ち着いて食事・おやつを楽しめるように、雰囲気作りなど工夫している。	4.6
143	年齢に応じた形態でそれぞれの食事時間に合わせて配膳し、適温給食を実施している。	4.6
144	自然の恵みとしての食材や調理する人への感謝の気持ちが育つよう心掛けている。	4.5
145	あいさつの意味を知らせ、「いただきます」「ごちそうさま」と感謝を持って食事ができるように努めている。	4.7
146	ゆとりのある食事の時間を確保し、食事する部屋が温かな親しみとくつろぎの場となるように遮光やテーブル、椅子、食器、食具、また調理室や保育室などの環境に配慮している。	4.4
147	偏食や好き嫌いがある子への対応を園内で話し合い、共通理解している。	4.0
148	偏食や残さず食べることを直そうと、過度に叱ることがないように配慮している。	4.4
149	個人差や食欲に応じて量を加減できるようにしている。	4.6
150	子ども達が育てた収穫物などを調理し、食材への関心や食べる意欲を育てている。	4.7
151	その日の昼食の食べ具合などを、必要に応じて保護者に知らせている。	4.5
152	年齢、月齢に応じた食事の量や形態（固さや大きさ等）を理解し、一人ひとりの成長に応じた食事を提供している。	4.5
153	旬のものや季節感のある食材を使用し、年中行事と関連づけて食文化に興味を持たせている。	4.6

第4章 子育て支援

154	保護者とともに、子どもの成長の喜びを共有している。	4.6
155	保護者懇談会や保育参加などの機会を通して、子育てについて保護者と共通理解を深めたり、保護者同士の交流の場を設けたりしている。	4.1
156	保護者の思いを受け止め、様々な内容の相談・依頼に適切に対応している。	4.5
157	保護者が子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるよう心がけている。	4.5
158	常に保育に関する情報収集や技術向上を心掛け、専門家の自覚を持って保護者にアドバイスができる。	4.2
159	送迎時やおたより帳などでの保護者と日常的な情報のやり取りを大切にしている。	4.5
160	必要に応じて保護者との個別面談を行っている。	4.6
161	あなたの保育に批判的な保護者に対しても、丁寧に意見や要求を受け止めようとしている。	4.4
162	保護者からの相談内容によっては担任の保育士がすべて対応するのではなく、主任・園長などが対応している。	4.7
163	虐待を疑われる子どもの情報を得た場合、速やかに主任・園長に報告し、要保護児童対策地域協議会や児童相談所などの機関に照会、通告を行う園の体制を理解している。	4.5

第5章 職員の資質向上

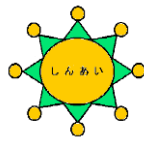
164	あなたは保育士としての人間性や倫理観を高めるために、常に新しいことにチャレンジし、自己研鑽している。	3.9
165	施設長は一人一人の職員の資質の向上、及び職員全体の専門性の向上を図るために自己評価や保育所内外の研修を実施している。	4.4
166	研修に参加したり専門書を読むなどして、保育に関わる様々な知識や技術の向上に努めている。	4.0
167	身だしなみ（爪、マニキュア、髪型、髪の色、まつ毛、カラーコンタクト、ピアス等）の清潔感を意識している。	4.7

総合ポイント 考察

子育て支援においては、担任のみで全てを対応するのではなく、主任や園長に相談し、職員間でしっかり情報共有し、より良い支援に努めている。今後も引き続き意識しながら保育を行っていきたい。

総合ポイント 考察

職員の資質向上において、自己評価は月に一度程度、個人の目標設定や振り返りを行うことで、意識向上に努めることが出来ている。年間を通して、定期的にクラス会議を行うことで、職員間の共通理解を深めることができた。今後も引き続き機会を設け意識を高めていきたい。



(2018. 4. 1 改訂版)